

分野	41	市街地	通番 72
施策	411	中心市街地整備の推進	
5年後の目標		ひと中心のにぎわいのあるまちをコンセプトに阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の実現に向け、具体的な整備に着手する。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	阪急長岡天神駅周辺整備事業		会計	款	項	目	646,837,533	まちづくり政策室
			一般	8	4	1		
事業の概要								
長岡天神駅周辺まちづくり協議会と調整しながら、阪急長岡天神駅周辺整備基本計画を実現するため、地元合意形成を図りつつ、事業に着手します。 また、京都府や鉄道事業者と共に、連続立体交差事業の事業化を推進します。								

令和4年度の取組								
D (取組)	指標①	東地区市街地整備事業の進捗					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の策定(令和元年度)	目標	暫定広場の検討	暫定広場の整備工事・完成	南エリアの検討	南エリアの検討	南エリアの検討	
		実績	暫定広場の検討	暫定広場整備工事の契約				
	指標②	西地区市街地整備事業(補助幹線道路・駅前広場)の進捗					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の策定(令和元年度)	目標	事業の検討	事業の検討	事業着手	事業推進	事業推進	
		実績	事業の検討	事業の検討				
	<p>・ 東口暫定広場の整備にあたり、隣接住民等を対象とした意見交換会やLINEアンケート調査などを行い、設計に反映し、令和5年3月に工事請負契約を締結しました。</p> <p>・ 西地区の市街地整備については、5月～10月に地権者の個別意向調査を実施、12月に世話人を募集し、2月には地権者検討会設立に向けた世話人会を開催してまちづくりの将来像を検討しました。</p>							
	意見交換会							
								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		鉄道三駅乗降客数	西山天王山駅は回復傾向が見られるものの、他の二駅は依然として新型コロナウイルスの影響を受けており、前年度と同水準となっています。	187
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・ 連続立体交差事業の影響を受ける駅東地区では、暫定駅前広場整備工事の契約や地権者の意向調査、民間事業者へのヒアリングを実施しました。 ・ 駅西地区では、半数を超える地権者の方の意向をお伺いするとともに、地権者検討会設立に向けた世話人会を開催し、駅ロータリーの位置、駅前拠点空間及び居住空間などまちづくりの将来像について意見交換を行いました。
課題等	・ 地権者が多数おられることから、将来のまちづくりに対する地権者の理解と合意なしには進められない事業なので、丁寧な説明と粘り強い交渉により事業を具体化していく必要があります。			

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・ 東口暫定広場を完成させるとともに、仮設駐輪場の詳細設計及び暫定ロータリーの基本設計を行います。 ・ 西地区においては、地権者検討会を設立し、西地区整備計画素案を策定します。</p>

分野	41	市街地	通番 73
施策	411	中心市街地整備の推進	
5年後の目標	ひと中心のにぎわいのあるまちをコンセプトに阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の実現に向け、具体的な整備に着手する。		

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	新庁舎等建設及び周辺整備事業		会計	款	項	目	2,385,825,296	公共資産活用推進室
			一般	2	1	5		
事業の概要								
市庁舎の建替工事について、工事・引越・解体を繰り返す工程を効率的にかつ安全に推進します。併せて、周辺地域の整備について、関係部署・機関と連携して内容の確認や工程の調整を行います。また、付加機能(産業文化会館及び保健センター的機能)及び、にぎわい施設を整備し、相乗効果によるにぎわいの拠点を創出します。								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	新庁舎建設及び周辺整備事業における進捗				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	・1期庁舎建設工事 ・西側道路整備	・1期庁舎完成 ・西側道路供用開始	・東棟、南棟解体 ・2期庁舎建設着手	・2期庁舎建設工事	・2期庁舎完成
	実績	・1期庁舎建設工事 着手 ・西側道路整備着手	・1期庁舎完成 ・西側道路整備工期 延長				
<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎建設について、令和4年11月に1期庁舎が完成し、1月に開庁式を行い、2月に供用開始しました。 ・供用開始に向けて、新規備品の調達や旧庁舎から1期庁舎への1次移転、旧庁舎から北棟及び分庁舎3への2次移転の業務を行いました。 ・西側道路整備について、1期工事は完了し、2期工事に着手しました。2期工事は、移転住居の工程が伸びたため工期を延長しました。 ・新庁舎建設や西側道路整備等の工事スケジュールを踏まえて、来庁者の動線変更や誘導員の配置を行い安全対策を行いました。 					新庁舎イメージ図 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員	
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎建設については、1期庁舎が11月に完成し、2月に供用開始しました。 ・西側道路整備については、移転住居の工程が伸びたため工期を延長しました。 	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の事業で連携し、来庁者や近隣住民への情報提供や安全確保に努める必要があります。 ・近隣住民への配慮事項について、それぞれの事業者へ周知徹底を図る必要があります。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・施工業者と定期的な打合せ等を通じ、工事を安全かつ円滑に進めます。 ・工事のスケジュールや内容、来庁者の動線変更等については、広報紙やホームページの活用及び周辺住民へのチラシを配布し、引き続き周知を徹底します。

分野	41	市街地	通番 74
施策	411	中心市街地整備の推進	
5年後の目標	ひと中心のにぎわいのあるまちをコンセプトに阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の実現に向け、具体的な整備に着手する。		

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	長岡京駅前線整備事業		会計	款	項	目	504,389,571	まちづくり 政策室
			一般	8	4	2		
事業の概要								
現在施行中の第4工区(223m)について、引き続き事業の進捗を図ります。								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	長岡京駅前線第4工区の事業進捗				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	第4工区の用地 買収率38% (令和2年度)	目標	工事着手	工事推進	工事完成	—	—
		実績	第4工区の用地買収率 61%	第4工区の用地買収率 83.6%			
<ul style="list-style-type: none"> ・用地買収に必要な物件調査を実施し、権利者と協議を重ね用地買収を進めました。 ・買収済みの用地につき、埋蔵文化財調査を行いました。 ・権利者との用地交渉が長期化するなどしたため、事業認可を令和8年度末までに変更しました。 					長岡京駅前線(第4工区) 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員	
		市街歩行者数 (アゼリア通り・天神通り)		平成25年12月の阪急電鉄西山天王山駅開業を受け、長岡天神駅から西山天王山駅へ利用者が遷移するとともに、歩行者数が減少傾向にあります。	188
	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	・平成29年度に事業認可を受け、測量を経て用地買収を進めてきました。今年度、事業認可を延長したこともあり、目標の一部が達成できませんでしたが、一定の進捗を図ることができました。	
課題等	・被補償者の移転先の選定は今後の生活再建に直結するため、慎重に対応する必要があります。用地買収に時間を要する要因となっています。				

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・第4工区の早期供用開始を目指し、用地買収の推進と工事を実施していきます。 ・用地買収の進捗に応じ暫定的な整備を行い、早期事業効果発現を目指します。

分野	41	市街地	通番 75
施策	411	中心市街地整備の推進	
5年後の目標		ひと中心のにぎわいのあるまちをコンセプトに阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の実現に向け、具体的な整備に着手する。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	JR長岡京駅関連整備事業		会計	款	項	128,044,400	道路・河川課
			一般	8	2		
事業の概要							
<p>駅利用者の市民や乗降客に安全・快適に利用していただくため、東口駅前広場のリニューアル工事を実施します。</p> <p>また、人々が集い、語らう場となる東口駅前広場を検討します。</p>							

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	JR長岡京駅東口駅前広場の整備					単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	詳細設計 (令和2年度)	目標	工事着手	工事推進	工事完了	供用開始	利用状況検証	
		実績	工事着手	工事推進				
<p>・年度当初より、その2工事としてロータリー整備及びシェルター設置工事を実施し、完了しました。</p>							 <p>東口駅前広場イメージ図</p>	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・4つに分けて実施する整備工事のうち、ロータリー整備等となるその2工事が完了しました。引き続き、今年度中に舗装・サイン工事等となるその3工事及び植栽関係となるその4工事を進めていきます。	—
	課題等	<p>・東口駅前広場をご利用いただくため、安全に十分配慮し、工事を進める必要があります。</p> <p>・賑わい広場整備について、整備及び運営内容の検討、地元との調整等に時間を要します。</p>			—

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	<p>2:進め方の改善の検討が必要</p> <p>対応策等</p> <p>・令和3・4年度より引き続き、その3・その4工事を実施します。</p> <p>・再エネ設備(太陽光パネル、蓄電池)を導入することで、東口駅前広場のゼロカーボン化を進めます。</p> <p>・賑わい広場整備については、ほこみち制度を活用し、運営内容等を検討、地元と調整した上で決定するため、当初計画より1年程度遅れる予定です。</p>

分野	41	市街地	通番 76
施策	412	調和のとれた都市形成	
5年後の目標		住・工・商の計画的な土地利用の上で、高い生活利便性を実現し、良好な都市空間が形成されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	良好な住環境の推進		会計	款	項	目	655,312	都市計画課
			一般	8	4	1		
事業の概要								
引き続き、まちづくり条例の見直しを行い、老朽化や耐震不足のマンション等の建て替えの促進を図り、また、高齢者世帯、子育て世帯、単身世帯など、幅広い世帯に選択される良好な住環境を誘導し、定住促進を図ります。 建築紛争の予防と調整を行い、まちづくり協議の円滑化を図ります。								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	まちづくり条例及び施行規則の見直し				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	平成6年制定、 令和2年最終改正	目標	基準見直し項目の整理	基準見直し項目に係る調査・検討	基準見直し項目について審議	まちづくり条例及び施行規則の改正	まちづくり条例及び施行規則の運用
		実績	基準見直し項目の整理	基準見直し項目に係る調査・検討			
・前年度に整理した見直しが必要な項目について、他市条例の状況調査や関連部署との調整などを行い、改正の可否も含め方向性を取りまとめました。					長岡京市のまちなみ 		

施策の「5年後の目標」に対する評価 令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・他市条例の調査や関連部署と協議・調整を行い、道路の開発技術基準などの見直しが必要な項目について方向性を取りまとめました。	
課題等	・生活スタイルの多様化や住宅事情等の変化に伴い、幅広い世帯に選択される良好な住環境を誘導するため、誘導居住水準についても検討していく必要があります。				

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
1:計画通りに進めることが適当	・条例・規則の改正案を作成し、重要な事項の変更についてはまちづくり審議会に諮ります。

分野	41	市街地	通番 77
施策	412	調和のとれた都市形成	
5年後の目標		住・工・商の計画的な土地利用の上で、高い生活利便性を実現し、良好な都市空間が形成されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	空き家対策事業		会計	款	項	268,484	都市計画課
			一般	8	4		
事業の概要							
空き家等対策計画に基づき、空き家の発生抑制のために空き家所有者やその予備軍となる高齢者等に対して啓発するとともに、空き家行政プラットフォームや空き家バンクの運用により、空き家に関する課題の解決や、空き家の流通、利活用を促進します。 空き家等対策の推進に関する条例に基づき、所有者へ空き家の適切な管理を促すことで生活環境の保全を図り、市民の安全・安心を確保します。							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	空き家の苦情是正率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	76(H28-R1年度平均)	目標	80	80	83	85	85
		実績	68	96			
<ul style="list-style-type: none"> ・苦情があった空き家の所有者に対して、適正管理のお願い文書を送付しました。 ・空き家所有者と近隣住民との連絡先交換を促しました。 					空き家啓発チラシ 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		市内空き家数		少子高齢化により、住宅供給過剰や住み替え等による空き家の件数は、今後増加すると思われます。	187
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情があった空き家所有者に対し、適正管理のお願い文書を送付し、植物に関する苦情については、ほぼ是正されました。 ・空き家所有者と近隣住民との連絡先交換が比較的進みました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の損傷に関する苦情は対応に時間を要する案件が多いため、苦情内容の割合により是正率が上がりにくいことがあります。 ・当事者間での解決が望ましいが、普段から近所付き合いがなされていないことにより、連絡先の交換に懸念を示されることが多くあります。 				

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉施設などへのチラシ配架や出前ミーティングなどにより、空き家や管理不全空き家の発生抑制の啓発を継続していきます。

分野	41	市街地	通番 78
施策	413	都市機能の再創造	
5年後の目標		人の流れをまちに誘導し、新たな交流とにぎわいを生み出している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	コンパクトシティ推進		会計	款	項	3,677,380	まちづくり 政策室
			一般	8	4		
事業の概要							
阪急西山天王山駅周辺地区、都心ゾーンにおける都市再生整備計画事業の推進及び次期計画の検討を進めます。また、第二次立地適正化計画を策定します。							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標①	【西山天王山駅周辺】都市再生整備計画(一次計画R1～R5)の進捗率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	47(令和2年度)	目標	98	99	100	二次計画の推進	二次計画の推進
		実績	99(41)	137(56)			
	指標②	【都心ゾーン】都市再生整備計画(一次計画R2～R4)の進捗率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	4(令和2年度)	目標	72	100	二次計画の推進	二次計画の推進	二次計画の推進
		実績	94(56)	147(87)			
	<p>・西山天王山駅周辺地区、都心ゾーン地区の都市再生整備計画に基づき、新庁舎1階ロビー整備、長岡第四小学校建替え事業及びJR長岡駅前広場整備など各種事業を実施しました。</p> <p>・新たに「第2期都心ゾーン地区都市再生整備計画」を策定しました。</p> <p>※実績値は令和2年度時点の全体事業費に対する進捗率であり、()内は阪急長岡天神駅東口暫定整備や第四小建替え事業などを含む、最新の整備計画の全体事業費に対する進捗率</p>					<p>新庁舎1階ロビー</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	
	達成度合	鉄道三駅乗降客数	西山天王山駅は回復傾向が見られるものの、他の二駅は依然として新型コロナウイルスの影響を受けており、前年度と同水準となっています。	187
	課題等	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	・人の流れをまちに誘導するための駅前広場整備など都市基盤整備事業を実施しました。	

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・引き続き都市再生整備計画に基づく事業を実施し、持続可能な都市経営を実現します。</p>

分野	41	市街地	通番 79
施策	413	都市機能の再創造	
5年後の目標		人の流れをまちに誘導し、新たな交流とにぎわいを生み出している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	公共施設再編整備事業		会計	款	項	目	15,000	公共資産 活用推進室
			一般	2	1	5		
事業の概要								
公共施設等の維持管理や更新にかかる負担の軽減、跡地の活用、財源の確保、あるべき行政サービスの水準などの検討を行い、公共施設等総合管理計画及び公共施設等再編整備構想を改定し、その内容に基づいて公共施設等の再編整備等を進めます。								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	公共施設等総合管理計画及び公共施設等再編整備構想の改定				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	個別施設計画の策定(令和2年度)	目標	・総合管理計画の改定 ・公共施設等再編整備構想の改定	改定内容に基づく公共施設等の再編整備等の支援	改定内容に基づく公共施設等の再編整備等の支援	改定内容に基づく公共施設等の再編整備等の支援	改定内容に基づく公共施設等の再編整備等の支援
		実績	公共施設等総合管理計画及び公共施設等再編整備構想改定	・旧老人憩の家跡地活用の具体化 ・公共施設整備にかかる財源の確保			
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に改定した「長岡京市公共施設等総合管理計画」及び「長岡京市公共施設等再編整備構想2021」で示した方針を元に、関係部署からなるプロジェクトチームを中心に公有地の活用について協議しました。 ・旧老人憩の家跡地は、庁内協議及び地域との調整をふまえ活用内容を決定しました。 ・施設整備に必要な財源を確保するために公共施設整備基金の積立てを再開しました。また、施設整備の資金計画を効果的にするため、公共施設整備基金条例を改正しました。 ・公共施設カルテを最新の情報に更新しました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員	
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公有地の活用を具体化するため各箇所ごとにプロジェクトチームを結成しました。 ・旧老人憩の家跡地は駐車場用地として令和5年度から民間事業者に貸付けすることを決定しました。 ・公共施設整備基金条例を改正しました。また、同基金に700,000,000円の積立を行いました。 ・個々の施設の状態を把握するために公共施設カルテを最新の情報に更新し、全施設の情報を庁内で共有しました。 	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「長岡京市公共施設等総合管理計画」及び「長岡京市公共施設等再編整備構想2021」で示した方針を具体化していく必要があります。 ・「長岡京市公共施設等総合管理計画」及び「長岡京市公共施設等再編整備構想2021」において活用方針が未定の跡地について方針を決定する必要があります。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当
	対応策等 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームでの検討を引き続き行い、跡地活用の方針を具体化していきます。 ・方針が未定の未利用地については、方針を決定するために庁内で合意形成を進めていきます。

分野	42	道路・交通	通番 80
施策	421	交通ネットワークの充実	
5年後の目標		超高齢社会やエコライフ実践を踏まえた交通ネットワークが充実しており、誰もが安心して快適に移動できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	公共交通基盤整備事業		会計	款	項	目	50,515,386	交通政策課
			一般	8	4	1		
事業の概要								
<p>路線バスやはっぴいバスで地域の人々の移動手段を確保します。また、バス以外の移動手段についても積極的に検討するとともに、済生会京都府病院の移転に合わせて、はっぴいバスのルート再編を行い、交通ネットワークの充実を目指します。</p> <p>阪急バス長岡京線の収支状況悪化に伴う減便計画は約3割の減便とされており、同計画がそのまま実施されると199便となりますが、運賃の在り方やバスの更なる利用促進、必要に応じた財政支援などの手段を講じてバス路線の維持に努めます。</p>								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	バス路線の維持(1日あたりの便数)				単位	便/日
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	275(令和2年度)	目標	245以上	245以上	245以上	245以上	245以上
		実績	254	241			
<p>・令和4年6月からはっぴいバスが3ルートでの運行を開始しました。</p> <p>・令和3年度の地域公共交通会議で決定した持続可能な新たな「公共交通中心のまちづくり」の実現に向けた利便性向上・利用促進策の導入、路線バスのルート・ダイヤの再編、路線バスの運賃適正化の3つの柱を令和4年6月から取り組みました。</p> <p>・阪急バスの通学定期券および高齢者用フリー定期券の購入補助やバス利用後のタクシー初乗運賃を無料にする公共交通乗継事業を開始しました。</p>						阪急バス 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<p>・令和4年度中において、阪急バス長岡京線のルート・ダイヤの再編が実施され、1日あたりの便数が令和3年度より減少しましたが、目標に近い便数が維持されました。</p>	
課題等			<p>・阪急バス長岡京線の収支は、依然として赤字が続いています。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数がコロナ禍以前まで回復していません。</p>	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<p>・利便性向上・利用促進策を引き続き実施し、バス利用を増やし、バス路線を維持していきます。</p> <p>・地域公共交通協議会において、利便性向上・利用促進策の導入、路線バスのルート・ダイヤの再編、路線バスの運賃適正化の効果を検証していきます。</p>

分野	42	道路・交通	通番 81
施策	421	交通ネットワークの充実	
5年後の目標		超高齢社会やエコライフ実践を踏まえた交通ネットワークが充実しており、誰もが安心して快適に移動できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	自転車ネットワーク路線整備事業		会計	款	項	目	0	交通政策課
			一般	8	4	1		
事業の概要								
長岡京市自転車活用推進計画(自転車ネットワーク計画)に基づき、自転車ネットワーク優先整備路線の整備を推進します。								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	自転車ネットワーク計画における優先整備路線の整備率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0(令和2年度)	目標	10	20	30	40	50
		実績	19.9	34.3			
<p>・長岡京市自転車活用推進計画に基づき、優先整備路線のうち、市道第0203号線の一部、府道西京高槻線や府道下植野長岡京線の一部を整備しました。</p>					<p>整備された路線</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・主に京都府道において、目標値を大きく上回って整備されました。	—
	課題等	・一定の連続性を考慮して、整備個所を選定する必要があります。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	・引き続き道路管理者と協議を行い、自転車ネットワーク優先整備路線の整備を行います。

分野	42	道路・交通	通番 82
施策	422	道路空間の整備	
5年後の目標	道路空間の安全性と快適性の向上のため、歩車道の維持管理や再整備が適切に行われ、バリアフリー化が進んでいる。		

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	府施行御陵山崎線整備事業		会計	款	項	目	9,750,000	まちづくり政策室
			一般	8	4	2		
事業の概要								
御陵山崎線第3工区の完成及び北伸整備については、実施主体の京都府と連携した支援を行い、早期の整備を推進するとともに、建設事業に要する経費の一部を負担します。 また、第3工区は事業計画が一部見直されており、無電柱化整備を同時に実施の予定となることから、合わせて連携・推進を行います。								

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	御陵山崎線第3工区の事業進捗及び北伸整備の事業推進					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	・第3工区工事着手 ・北伸区間の関係機 関協議(令和2年 度)	目標	・第3工区の工事推進 ・北伸整備の関係者協 議	・第3工区の工事推進 ・北伸整備の関係者協 議	・第3工区の工事完成 ・北伸整備の関係者協 議	・北伸整備の関係者協 議	・北伸整備の関係者協 議	
		実績	第3工区の工事推進	第3工区の工事推進				
<ul style="list-style-type: none"> ・府施行街路事業負担金を支出しました。 ・全ての事業用地が確保でき、埋蔵文化財調査を完了されました。 ・地下埋設物の移設工事や排水構造物等の整備がなされました。 ・無電柱化に向け、電線共同溝工事に着手されました。 ・京都府と事業推進に係る協議を行いました。 					御陵山崎線第3工区 			

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・御陵山崎線第3工区の埋蔵文化財調査が完了しました。また、地下埋設物の移設工事や排水構造物等の整備がされました。 ・無電柱化に向け、電線共同溝に着手されました。 	
	課題等	・事業完了による早期の効果発現が求められます。			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> ・無電柱化も含め、引き続き、第3工区の整備を推進します。

分野	42	道路・交通	通番 83
施策	422	道路空間の整備	
5年後の目標	道路空間の安全性と快適性の向上のため、歩車道の維持管理や再整備が適切に行われ、バリアフリー化が進んでいる。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	交通安全施設整備事業		会計	款	項	9,654,700	道路・河川課
			一般	8	2		
事業の概要							
市内小学校区の通学路や幼稚園、保育所の散歩コースの安全対策、快適性を確保するため、長岡京市子どもの移動経路/通学路等の交通安全プログラムに基づく歩道整備や交通安全対策等整備計画を策定し、計画的に整備を実施します。							

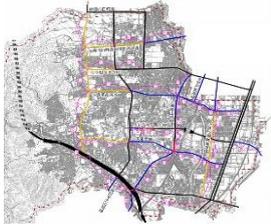
令和4年度の取組								
D (取組)	指標	歩道延長(1,020m)の整備率					単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	0(令和2年度)	目標	33.3	43.1	61.8	90.2	100.0	
		実績	1.1	3.8				
<ul style="list-style-type: none"> こども園に隣接する市道第1069号線において、水路の暗渠化による28mの歩道を整備しました。 								
市道第1069号線歩道整備								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
C (評価)	達成度 C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 市道第1069号線歩道整備は、工事を2つに分け、その1工事(繰越事業)は令和4年度に完了し、その2工事においても繰越事業となるため、令和5年度上半期に全て完了します。 光明寺に隣接する市道第3287号線他歩道整備については、用地買収の難航により、実施できませんでした。 四小前となる市道第0202号線歩道整備については、整備内容の変更により、令和4年度は設計を実施したため、整備工事は実施できませんでした。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 市道第3287号線他歩道整備については、引き続き用地交渉中となり、早期の用地確保が課題となります。 市道第0202号線歩道整備については、繰越事業となる設計において関係機関と協議・調整した上で、早期着工する必要があります。 		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 市道第3287号線他歩道整備における用地の確保については、土地所有者と協議を重ね、制度を活用することで事業進捗を図ります。 市道第0202号線については学園通りとなるため、第四小学校の整備に併せ、早期に設計を完了し、整備工事を進めます。

分野	42	道路・交通	通番 84
施策	422	道路空間の整備	
5年後の目標		道路空間の安全性と快適性の向上のため、歩車道の維持管理や再整備が適切に行われ、バリアフリー化が進んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	都市計画道路の見直し		会計	款	項	目	—	まちづくり 政策室
			一般	8	4	2		
事業の概要								
17路線34,400mの都市計画道路を京都府や近隣市町と調整し、見直します。								

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	都市計画道路の計画変更					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	計画の存続・廃止等の見直しにかかる素案の策定(令和2年度)	目標	都市計画変更(計画見直し)	都市計画変更(ルート見直し)	計画見直し(関係機関協議)	計画見直し(関係機関協議)	計画見直し(関係機関協議)	
		実績	都市計画変更(計画見直し)	都市計画変更(ルート見直し)				
・更なる都市計画道路のルート見直しに向けて、部内で議論・検討を行いました。					都市計画道路の見直し			
								

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・議論・検討を重ねた結果、都市計画道路のルート見直しについては、現時点で不要と判断しました。	—
	課題等	—			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	4: 根本的見直し、休・廃止の検討	

分野	43	産業	通番 85
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	創業支援事業		会計	款	項	6,006	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
<p>創業者の増加は地域経済の持続的発展や課題となっている空き店舗対策、雇用の創出など地域経済の活性化や生活基盤の安定にも繋がるものであることから、創業イベントやチャレンジショップなど創業支援等事業計画に基づいて、創業希望者の支援と機運の醸成を行います。</p>							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標①	創業相談件数(創業支援等事業計画に基づく支援事業内容ごとの合計)				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	70(令和元年度)	目標	95	95	95	95	95
		実績	61	67			
	指標②	創業支援件数(創業支援等事業計画に基づく支援事業内容ごとの合計)				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	21(令和元年度)	目標	39	39	39	39	39
		実績	28	34			
	<p>・創業支援等団体と連携を図り、多角的な創業支援に取り組みました。 ・創業に興味がある段階の市民を対象としたビジネスカフェについては、令和4年度もコロナ禍での開催を見送りましたが、中小企業振興基本条例キックオフイベント時に、先輩創業者と交流を行うことができる機会を設けました。 ・商工会をはじめとする創業支援を行う機関が、創業希望者を対象としたセミナー開催や、創業に向けた計画作成支援、資金調達や経営に関する個別相談等を行うとともに、関係機関の相談窓口と連携し、創業希望者のニーズを踏まえた支援の紹介や支援機関に繋げることで総合的な創業支援を行いました。 ・商工会事業として、創業者へのテナント料の補助金や、創業時に必要な資機材を市内事業者から購入する経費の一部を助成するパウチャー助成金により、創業者の成長をサポートしました。</p>						

施策の「5年後の目標」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド
	達成度合	新たな起業者数	令和元年は平成28年と比較して新設事業者数が増加しています。
		B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・創業相談の件数は前年度より微増しているものの、目標値を下回っています。実際に創業まで至った創業支援件数は、目標値の約9割程度まで増加しています。 ・コロナ禍においても、創業希望者に対しては、ニーズに応じた多角的な支援を提供することができ、創業に繋がっていると推察します。 ・商工会事業である創業者へのテナント料補助及びパウチャー助成については活用件数が増加しており、創業以後に事業を継続させるための基盤強化に繋がっています。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・創業希望者に対しては、段階に応じた適切な支援を提供できていますが、創業に興味がある方を創業希望者にステップアップさせるための取組がコロナ禍で手薄になっています。 		

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>4:根本的見直し、休・廃止の検討</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が収束し、各事業が平時モードとなることから、ビジネスカフェの開催や、中小企業振興基本条例を機とした事業者同士・創業に興味がある方と事業者とのつながり創出を行い、創業の裾野を広げていきます。 ・中小企業振興基本条例制定を機に、次年度以降は、創業支援も含めた中小企業振興等の包括的な推進を図ります。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	4:根本的見直し、休・廃止の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が収束し、各事業が平時モードとなることから、ビジネスカフェの開催や、中小企業振興基本条例を機とした事業者同士・創業に興味がある方と事業者とのつながり創出を行い、創業の裾野を広げていきます。 ・中小企業振興基本条例制定を機に、次年度以降は、創業支援も含めた中小企業振興等の包括的な推進を図ります。
方向性	対応策等				
4:根本的見直し、休・廃止の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が収束し、各事業が平時モードとなることから、ビジネスカフェの開催や、中小企業振興基本条例を機とした事業者同士・創業に興味がある方と事業者とのつながり創出を行い、創業の裾野を広げていきます。 ・中小企業振興基本条例制定を機に、次年度以降は、創業支援も含めた中小企業振興等の包括的な推進を図ります。 				

分野	43	産業	通番 86
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	企業誘致の促進		会計	款	項	目	3,198,300	商工観光課
			一般	7	1	2		
事業の概要								
既存企業や事業所の動向を注視しつつ、京都府や各所管において情報共有を図るとともに誘致促進に向けた体制を整えます。また、新庁舎の建設や、長岡天神駅周辺まちづくり基本構想に基づく土地利用計画に沿った誘致政策に取り組めます。								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	企業進出にかかる相談件数、()内は期間助成対象件数(累計)				単位	件
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	13(2) (平成28～令和元年度)	目標	2(0)	4(0)	6(1)	9(1)	12(2)
		実績	3(0)	7(0)			
<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市企業立地促進条例等に基づき助成金を交付しました。 (参考) 操業支援助成金 1,958,000円 地元雇用促進助成金 1,200,000円 ・企業進出に係る相談に対して、庁内関係部署や関係機関と連携し、可能な範囲で相談者に情報提供を行いました。 ・市内の事業所から、規模拡大に伴う新工場設置にあたり、上記条例に基づく助成対象企業の指定申請が1件ありました。長岡京市企業立地審査会に諮問を行い、指定することが適当との答申を受け、当該事業所を助成対象企業として指定しました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		市内民営事業所数・従業員数の推移	事業所数は年々減少しています。従業員数は増減を繰り返していますが、令和3年は増加しています。	189
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業進出に係る相談は、目標を上回る4件の相談があり、企業立地において本市の市場ニーズが高まっていることが推察されます。 ・相談事案に対しては、商工会等と連携することで、空きテナントの案内に繋がったほか、庁内関係部署と連携し、可能な範囲で都市計画情報の提供や土地情報の提供を行いました。 ・企業立地促進条例に基づく助成対象企業を指定することで、市内事業所の流出防止や事業規模拡大、地元雇用の強化につながる支援を行うことができました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・企業進出のニーズはあるものの、依然として具体的な土地の案内や希望される面積の土地を提案することが課題です。 ・企業立地促進条例が令和5年度末に時限を迎えることから、企業立地促進の方向性及び条例のあり方についての検討が必要です。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・令和5年度中に、企業立地促進条例の継続可否を検討し、社会情勢の変化を踏まえた企業立地促進の手法について、企業立地審査会で議論を行います。

分野	43	産業	通番 87
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	商工会支援事業		会計	款	項	35,294,000	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
地域商工業の発展や、中小企業の育成を推進するため、商工会の組織強化と実施する経営指導や人材育成など各種事業を支援します。また、(仮称)中小企業振興条例の制定を検討し、地域が一体となって中小企業振興に努め地域経済活性化に繋がります。							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	商工会員数				単位	事業所
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	739(令和元年度)	目標	793	820	847	874	902
		実績	872	936			
<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業者への経営改善指導、地域振興等への支援を行うため、商工業振興事業補助金として18,139千円を商工会に補助しました。 ・商工会が市内建設業の活性化と市民の住宅環境改善を目的とした「リフォーム工事券」(プレミアム率20%)を発行し、上記補助金で支援しました。また、令和3年度に発行した「リフォーム工事券」(プレミアム率30%)について、市が商工会への補助金で支援しましたが、コロナ禍の資材不足等によりやむをえず施工の遅れが生じた利用に対して、令和4年度に1,620千円補助しました。 ・原油価格と物価高騰への対策として、商工業者の育成とあわせて、市民の環境意識の向上と市民住宅の省エネ化推進を目的とした「省エネ推進エコリフォーム工事券」(プレミアム率30%)の発行を支援し、商工会に15,535千円補助しました。 ・商工会において、会員・非会員を問わず、コロナ禍での経営支援を含めた各種相談に対応しました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価			
令和4年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド 対応員
		市内民営事業所数・従業員数の推移	事業所数は年々減少しています。従業員数は増減を繰り返していますが、令和3年は増加しています。 189
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況 ・リフォーム工事券は、126件の住宅環境改善を支援することができたほか、工事総額は55,000千円以上となり、資材高騰の影響を受けている市内建設業の活性化に寄与しました。 ・省エネ推進エコリフォーム工事券は、210件の市民住宅の省エネ化を支援することができたほか、工事総額は167,000千円以上となり、消費喚起による建設業をはじめとする市内事業者の経済活性化に寄与しました。 ・会員であることを問わずに経営相談を行ったことや、コロナ禍において商工会活動の取組が認識・理解され、ニーズが高まったことにより、会員数が64事業者増加し、目標を達成しました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が収束し、平時モードとなりますが、アフターコロナの経済活動への影響や、社会の行動変化を踏まえた商工業の継続と拡大への支援が必要です。 ・コロナ禍収束後に、商工会活動へのニーズ低下や脱会が生じないように、事業者が魅力を感じる商工会活動への支援が必要です。 		

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4:根本的見直し、休・廃止の検討</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の情報媒体の活用や、デジタル社会への対応等、商工会の新たな取組に対して支援を行い、商工会と連携しながら、地域経済の活性化を図ります。 ・中小企業振興基本条例制定を機に、次年度以降は中小企業振興等の包括的な推進を図ります。 </td> </tr> </tbody> </table>	方向性	対応策等	4:根本的見直し、休・廃止の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の情報媒体の活用や、デジタル社会への対応等、商工会の新たな取組に対して支援を行い、商工会と連携しながら、地域経済の活性化を図ります。 ・中小企業振興基本条例制定を機に、次年度以降は中小企業振興等の包括的な推進を図ります。
方向性	対応策等				
4:根本的見直し、休・廃止の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の情報媒体の活用や、デジタル社会への対応等、商工会の新たな取組に対して支援を行い、商工会と連携しながら、地域経済の活性化を図ります。 ・中小企業振興基本条例制定を機に、次年度以降は中小企業振興等の包括的な推進を図ります。 				

分野	43	産業	通番 88
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	中小企業振興条例の制定		会計	款	項	197,468	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
中小企業振興条例を検討していくプロセスを通して、中小企業振興支援への取り組みに対する決意を示すとともに、事業者自らが条例を作り上げていくことにより、ステークホルダーの意識を高め、更なる長岡京市の中小企業の振興及び地域経済の循環・活性化をめざします。							

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	中小企業振興条例の制定					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	条例検討準備会発足(令和元年度)	目標	検討会の設立	条例の制定	—	—	—	
		実績	検討会の設立・開催	条例の制定				
<ul style="list-style-type: none"> ・3回(設立後全6回)にわたる条例検討会とパブリックコメントを経て、令和4年9月30日に「中小企業振興基本条例」を制定しました。(令和4年10月1日施行) ・「みんながつながる交流会—長岡京市中小企業振興基本条例キックオフイベント」を開催し、事業者・市民に対する条例理念の周知を行いました。 ・同イベントとあわせて、アンケート企画を行い、「市内のお気に入りのお店を教えてください」をテーマに、市公式LINEや公共施設、金融機関等で回答を募りました。 ・条例による「中小企業振興推進会議」を設置し第1回会議を開催しました。 					条例キックオフイベントの様子 			

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定のとおり、検討会等を通して、事業者・市民・関係団体が地域経済の循環・活性化について検討を行い、各主体の合意のもと、条例制定を行うことができました。 ・条例キックオフイベントでは、約80名の方が会場に参加し、市内の事業者による創業や新しい取組の事例発表のほか、参加者がつながる交流会を行い、事業者間での情報共有やつながり創出を行うことができました。 ・アンケート企画では、計1,388件の回答があり、市民が地域経済循環について考える機運醸成に寄与したほか、市と連携している市民ライターとアンケート結果を共有し、情報発信のリソースとして活用しました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・条例制定後の関係団体等による主体的な推進手法や地域経済循環・活性化を目指した取組を継続的に検討することが必要です。 ・まずは事業者を巻き込んだ、条例理念の認知度向上に取り組む必要があります。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	4:根本的見直し、休・廃止の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・条例制定後の地域経済循環に係る施策は、市が主体的に進めるのではなく、各主体のニーズの反映や、主体的な取組検討、相乗的な効果向上を図るため、中小企業振興推進会議が総合的に推進していきます。 ・アンケート企画の結果を広報紙面で活用していくとともに、事業者に対する条例理念の理解促進を進めます。 ・初期の目標は達成したことから、実施計画事業としては完了となります。次年度以降は市の中小企業振興等の包括的な推進を図ります。

分野	43	産業	通番 89
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	新・観光戦略プラン推進事業		会計	款	項	6,655,000	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
観光戦略プラン推進本部会議を本市の観光施策展開におけるシンクタンクと位置付け、マーケティング調査結果や各種事業結果の分析に基づいたアクションプログラムを実施します。最終目標である観光消費額向上と滞在時間延長に向けた観光誘客と周遊施策を展開し、まちの魅力発信にもつなげます。							

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	体験プログラム数					単位	個
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	30	32	34	36	38	
		実績	37	38				
<ul style="list-style-type: none"> 観光消費額の向上や「観光目的地」としての長岡京市のイメージ形成に向けた取り組みを進めました。 「新・観光戦略プラン」の前期に発掘した事業者（プレイヤー）が造成する体験プログラムを常時販売できる体制を構築するために、域外で活動する旅行事業者に働きかけ、本市を含む京都西山エリアでの商品造成と販売体制づくりへの支援を行いました。 長岡天満宮周辺で事業を行うプレイヤーの連携による「拠点化」の一環として、境内で定期的開催するマルシェイベントの立ち上げを支援しました。 						リゾームマルシェ		
								

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光消費額の向上と魅力発信につながる民間主導の取り組みが進みました。 プレイヤーの自立した活動が活性化しており、事業者間の連携による体験プログラムの造成や販売体制の構築に加え、定期的なマルシェイベントの開催など多くの取り組みが進みました。 	
	課題等			<ul style="list-style-type: none"> プレイヤーの自立的な活動の継続とさらなる活性化のために、事業者間連携や情報発信、誘客、販路開拓などの面で支援を行う必要があります。 造成された体験プログラムなどの観光コンテンツをまちの魅力発信につなげるためのプロモーションや磨き上げを強化する必要があります。 	

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当
	対応策等 <ul style="list-style-type: none"> 「新・観光戦略プラン」に定めるアクションプログラムを着実に推進し、withコロナ・アフターコロナのニーズの変化を捉えて、事業者間の連携や情報発信、誘客など、自立的な取り組みを後押しするための支援を行います。

分野	43	産業	通番 90
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	観光誘客事業		会計	款	項	3,794,267	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
新・観光戦略プランのアクションプログラムによって創出された観光コンテンツや広域連携などを着実な誘客につなげるために、旅行商品の造成に向けた旅行会社との商談や、各コンテンツに適したプロモーションの展開などを行い、長岡京市の観光ブランドイメージの形成や、観光入込客数、観光消費額、関係人口の増加につなげます。							

令和4年度の取組								
D (取組)	指標①		観光入込客数(日帰) * 新基準補正後				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	866,843 (令和元年)	目標	500,000	650,000	850,000	885,000	920,000	
		実績	521,757	638,297				
	指標②		一人あたり観光消費額(日帰) * 新基準補正後				単位	円
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	2,105 (令和元年)	目標	1,800	1,950	2,100	2,200	2,300	
		実績	2,367	2,280				
	<ul style="list-style-type: none"> ・京都郊外の「観光目的地」としてのイメージ発信と定番化を図るために、京都の旅行ガイドブックに記事広告を掲載しました。 ・沿線住民への「休日のお出かけ先」としてのイメージ発信を図るため、SENSE NAGAOKAKYOと連携して、インスタグラムに周遊記事を掲載し広告配信をしました。 ・広域連携の取り組みとして相互誘客と地域のブランドイメージ形成のために「竹の里乙訓(向日市・長岡京市・大山崎町・京都府)」や京都市と連携し、京都西山の社寺をめぐるキャンペーンや自転車愛好家向けのデジタルスタンプラリーを実施しました。 							
								広域連携で取り組むイベント

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		観光入込客数・観光消費額 (日帰)	観光入込客数は新型コロナの影響がありながらも増加に転じました。観光消費額は、飲食店で観光客や消費額が増加したほか、通年で入山料を徴収するお寺が増えたことなどから改善しました。	188
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・観光入込客数は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響はありながらも、一定程度増加し、回復傾向にあります。 ・観光消費額の向上と旅やお出かけの「目的地」としてのイメージ発信を目的として、季節の観光名所とグルメスポットをつないだ周遊記事のSNS広告など情報発信を強化しました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・withコロナの観光ニーズの変化に対応する観光コンテンツの造成やプロモーションが必要です。 ・広域連携による取り組みでは、旅やお出かけの「目的地」としてのイメージ形成のため、継続的な情報発信に加えて、着実な誘客につなげるキャンペーンなどの取り組みが必要です。 			

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「新・観光戦略プラン」に定めるアクションプログラムを推進し、ニーズ把握や観光コンテンツの創出に向けた事業者への支援を進めていきます。 ・広域連携では、情報発信に加えて、着実な誘客につなげるキャンペーンなどを連携して実施していきます。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・「新・観光戦略プラン」に定めるアクションプログラムを推進し、ニーズ把握や観光コンテンツの創出に向けた事業者への支援を進めていきます。 ・広域連携では、情報発信に加えて、着実な誘客につなげるキャンペーンなどを連携して実施していきます。
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・「新・観光戦略プラン」に定めるアクションプログラムを推進し、ニーズ把握や観光コンテンツの創出に向けた事業者への支援を進めていきます。 ・広域連携では、情報発信に加えて、着実な誘客につなげるキャンペーンなどを連携して実施していきます。 				

分野	43	産業	通番 91
施策	432	営農支援	
5年後の目標		安定した農業経営の維持と農地の保全により、都市と農地との共生が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	担い手育成による農地保全事業		会計	款	項	目	5,189,602	農林振興課
			一般	6	1	3		
事業の概要								
<p>農業者の高齢化と後継者不足により労働力の低下が進行する中、安定した農業経営を維持することを目的に、本市の特産物である花菜、ナス、タケノコの普及啓発はじめ、生産技術の向上や新たな販路の創出を進めるとともに、収益性の高い農業への転換や普及を図ることで、営農規模の拡大や収益の向上に意欲的に取り組む次代の担い手を育成します。また、将来の地域の農業の在り方を定める「人・農地プラン」による農地の集積・集約化への機運醸成を図ります。</p>								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	農地の担い手への利用集積率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	20.9(令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	18.5	19.8			
<p>・特産物の栽培技術、品質向上を図るため、「ナス」の品評会を開催しました。 ・環境負荷の少ない農業の推進と特産物の高付加価値化を図るため、花菜、ナスの栽培における、剪定枝を有効利用した有機肥料の購入、散布に対して補助しました。 ・高収益作物栽培に有効な温室ハウスの設置に対して補助を行い、意欲的に農業経営を行う農業者を支援しました。 ・耕作放棄地対策や農業生産の安定化、効率化を図るため、長岡京市農作業受委託組合へ、農機具(コンバイン)の購入に対して補助しました。</p>					ナス品評会		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		主要作物(花菜、ナス、タケノコ)の出荷量	豊作や不作の年があるものの、農家数、農業就業者数、農地面積の減少から、出荷量は微減傾向にあります。		190
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・農業生産の安定化、効率化及び特産物の高付加価値化を図るため、農業施設設置や有機肥料、農機具(コンバイン)の購入に対する補助等を行いました。 ・昨年度より農地の担い手への集積面積が203a増加したため、利用集積率が増加しました。</p>	
課題等	<p>・利用集積率を向上させるためには、人材確保が喫緊の課題です。まずは地域農業の核となる地域の若手農業者の育成や農業経営の効率化等に支援し、併せて新規就農者の確保が必要となります。</p>				

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	<p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等 ・本市の特産物である花菜、ナス、タケノコの普及啓発はじめ、ふるさと納税等、新たな販路の創出を進めるとともに、収益性の高い農業への転換や普及を図ることで、営農の継続、規模の拡大に意欲的に取り組む次代の担い手を引き続き育成します。また、引き続き、担い手への農地の集積・集約化を図ります。</p>

分野	43	産業	通番 92
施策	432	営農支援	
5年後の目標		安定した農業経営の維持と農地の保全により、都市と農地との共生が図られている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	「農」を通じた交流と地産地消の推進事業		会計	款	項	1,545,337	農林振興課
			一般	6	1 3		
事業の概要							
農業や地元農産物に対する市民の理解と関心を深め農業に対する評価を高めるため、生産者の顔が見える販売や食育の取組など市民との交流機会を創出します。また、地元野菜の普及啓発を進めるとともに学校給食への納入や農家による販売機会を増やすことで、多様な営農活動の活性化や地産地消を推進します。							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	地元産農林産物の学校給食への納入実績金額				単位	万円
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	963(令和元年度)	目標	1,000	1,020	1,040	1,060	1,080
		実績	1,065	1,230			
<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大を図るため、市内スーパーへのインショップ出店を継続しました。 ・小中学校給食への地元産農産物の安定供給のため、納品調整を行いました。 また、中学校では臨時で通常品目以外の追加発注をもらい、売上増加に貢献しました。 ・市内事業所や保育所給食へ地元産農産物の供給を継続しました。 ・地元産農林産物に対する市民の理解を深めて地産地消の推進を図るため、地元産野菜の直売会(ガラシャ祭・農業祭)を実施しました。 ・地元産野菜の普及・PRを目的にFMおとくにや広報紙で農業祭の紹介を行いました。 ・軒先販売等の直売所リストへの掲載について追加募集を積極的に行い、リストの充実を図りました。 					農産物直売会 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校給食への地元農産物を少しでも多く供給する為、納品者へ作物の生育状況を聞き取り、各学校で納品ロスが出ないように納品調整を行いました。 また、給食食材の価格高騰の中、価格が安定している地元産野菜へ発注をもらうことでより多くの農産物の納品を行いました。 ・保育所給食、市内事業所への地元産農産物の供給や市内スーパーへのインショップ継続出店による販路拡大に取り組むとともに、地元産野菜の直売会を実施することで地元産農産物をPRして地産地消を推進しました。 ・たけのこの地方発送に対応可能な販売所の情報を市HPに掲載し、特産物の販売促進とPRを行いました。 	
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足の中、現在の農地をいかに耕作して行くのか、地域と十分に話し合い対策を行う必要があります。 ・学校からの発注に対して全量納品出来る体制を図る必要があります。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や地元農産物に対する市民の理解と関心を深めるため、多くのイベントへ出店を行い、対面販売を通じて、市民との交流機会を創出します。 ・直売所マップへの掲載件数を増やすため継続的に募集を行い、市内農産物のPRの充実に努めます。 ・引き続き、学校給食への納品率を向上させるため、学校間の納品者調整を行い、キャンセルを減らす取組に努めます。

分野	43	産業	通番 93
施策	432	営農支援	
5年後の目標		安定した農業経営の維持と農地の保全により、都市と農地との共生が図られている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	有害鳥獣対策の推進事業		会計	款	項	1,428,586	農林振興課
			一般	6	2		
事業の概要							
西山一帯に設置した防護柵の効果的な維持管理と野生動物の個体数管理を適正に行うとともに、猟友会への活動支援と有害鳥獣捕獲の連携強化を推進し、農作物の被害軽減を図ります。							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	鳥獣による農作物の被害面積				単位	a
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	209(令和元年度)	目標	137	129	121	113	105
		実績	178	212			
<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣捕獲でイノシシ3頭、シカ1頭、カラス4羽の実績がありました。 平成21年度から実施している広域捕獲事業（京都市、大山崎町との連携事業）において、イノシシ3頭、シカ1頭を捕獲しました。 農家組合長連絡協議会と連携して金網防護柵の点検・補修を行うとともに、維持管理に対する資材費等の支援を行いました。 					乙訓猟友会による有害鳥獣捕獲		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 乙訓猟友会と連携して効率的な捕獲を実施し、有害鳥獣の個体数管理を行いました。 農家への聞き取り等でエリア毎の農作物被害状況を把握すると共に、農家組合長連絡協議会と連携して金網防護柵の維持管理を実施しました。 金網防護柵内に生息している鳥獣による農作物被害が増加しました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 依然として農作物被害が発生しているため、有害鳥獣の侵入経路の調査を実施し重点的に補修を行うなど対応が必要です。また、引き続き有害鳥獣捕獲事業の取り組みにより、有害鳥獣の個体数調整を継続的に実施していく必要があります。 井ノ内地域など今まで被害の無かった西山から少し離れた地域でも被害が発生しています。 				

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<ul style="list-style-type: none"> 1:計画通りに進めることが適当 市内全域に設置している金網防護柵について、野生鳥獣の衝突や自然災害等により損壊するおそれがあるため、定期的な点検体制を整え、損壊箇所の早期発見・修繕に努めます。また、修繕に必要な資材費等の支援や、農業者等への技術的指導を進めていきます。 井ノ内地域など道路を渡って有害鳥獣が侵入しているため生体調査を行い、檻等を設置し捕獲を実施します。西山に近い農地では煙火等での追い払いを検討していきます。 隣接する他市町と情報共有を行い、金網防護柵の一体的な維持管理の効率化を図ります。

分野	44	防災・安全	通番 94
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要						
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目			決算額(円)	担当課
	雨水浸水対策事業	会計	款	項	—	下水道施設課
		公営企業会計				
事業の概要						
<p>京都府いろは呑龍南幹線全面供用開始(令和5年度)に向け、京都府と連携して事業を推進し、供用開始後は排水区域内の水路の整備を進めていきます。</p> <p>犬川の改修及び神足ポンプ場改修による排除能力の向上に向け、犬川排水区の浸水対策に取り組みます。</p> <p>風呂川排水区の機能向上に向け、浸水対策に向けた検討を進めます。</p>						

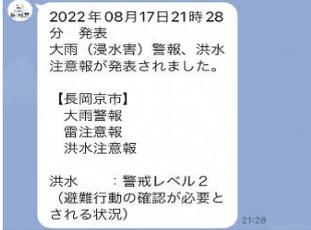
令和4年度の取組								
D (取組)	指標①	五間堀川排水区の工事進捗					単位	—
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	—	目標	いろは呑龍南幹線接続工事	いろは呑龍南幹線接続工事	いろは呑龍南幹線全面供用開始	雨水基本計画作成	雨水基本設計	
		実績	工事を実施	工事を実施				
	指標②	犬川排水区の工事進捗					単位	—
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	—	目標	雨水貯留施設詳細設計	雨水貯留施設工事 雨水ポンプ場詳細	雨水ポンプ場工事 犬川改修詳細設計	雨水ポンプ場完成	犬川改修工事	
		実績	詳細設計を実施	貯留施設工事、ポンプ場詳細設計を実施				
	指標③	風呂川排水区の整備進捗					単位	—
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
—	目標	基本設計	整備方針、スケジュール決定	整備方針に基づく進捗管理	整備方針に基づく進捗管理	整備方針に基づく進捗管理		
	実績	基本設計を実施	整備の方向性の決定					
<p>・いろは呑龍トンネル南幹線への接続工事(4箇所)のうち、芝本川・森本川の分水施設で工事を実施しました。また、馬ノ池川の分水施設、和井川の分水施設(滝ノ町地域の雨水を取込み※向日市事業)が供用を開始し、大雨時に雨水を取り込み機能を発揮しました。</p> <p>・犬川排水区は、雨水貯留施設の築造工事、神足雨水ポンプ場の詳細設計を実施しました。</p> <p>・風呂川排水区は馬場一丁目交差点地下部の雨水管渠の更新が重要であり、道路拡幅事業の進捗に合わせて事業を進める計画です。</p>					<p>雨水貯留施設(犬川排水区)の築造工事</p> 			

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	達成度合	雨水整備率	いろは呑龍トンネルの一部供用開始により数値が向上しました。	191
		達成状況	<p>・いろは呑龍トンネル南幹線接続施設のうち、芝本川・森本川の分水施設は京都府と調整を行い工事を進めました。</p> <p>・犬川排水区は貯留施設(I期)の築造工事、神足雨水ポンプ場の詳細設計を実施しました。築造工事、詳細設計共に関係機関との協議の遅れに伴い繰越となっています。</p> <p>・風呂川排水区は、関連事業の進捗がなかったことから、本年度の進捗はありません。</p>	
課題等	<p>・五間堀川排水区:京都府と連携し、餅田川、勝竜寺川の分水施設の立坑位置を早期に決定する必要があります。</p> <p>・犬川排水区:貯留施設(I期)築造工事および詳細設計については遅れを取り戻し令和5年度中に完了させる必要があります。また、令和5年度中に神足雨水ポンプ場の築造工事を始める必要があります。</p> <p>・風呂川排水区:馬場一丁目交差点の事業進捗に合わせ整備するため、関係機関と工程調整が必要です。</p>			

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・五間堀川排水区:京都府と連携し、施工中の接続工事を着実に進め、残る2箇所についても工事着手を目指し、関係機関や地元との調整を進めます。</p> <p>・犬川排水区:雨水ポンプ場の築造工事を行います。また、雨水貯留施設(II期)については京都府により用地取得を実施した後、工事を行う予定です。</p> <p>・風呂川排水区:関係機関と調整を行い整備方針およびスケジュール等を設定します。</p>

分野	44	防災・安全	通番 95
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	防災情報伝達手段の整備事業		会計	款	項	目	3,496,931	防災・安全 推進室
			一般	2	1	10		
事業の概要								
災害時に気象情報や防災情報、避難情報等を緊急に市民等に伝達するため、「防災情報お知らせメール」の登録を促進します。また、デジタル防災行政無線、Jアラート受信機、さらにはコミュニティFMを活用した情報伝達の取り組みを進めるとともに、新たな情報伝達手段の導入を図るなど、災害情報伝達手段の充実・強化を図ります。								

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	防災情報お知らせメール・長岡京市公式LINE登録者数					単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	12,000 (令和2年度)	目標	13,000	14,000	15,000	16,000	17,000	
		実績	45,602	87,235				
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年6月から市公式LINE、Facebook、Twitterで防災関連情報を一斉に発信できるように仕組みを統一しました。 FMおとくとに連携し、災害時の緊急割込み放送訓練や災害発生時に情報収集のツールとして活用できるよう広報活動を行いました。 						LINE配信画面 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 地域での講座や各訓練時、広報紙、HP等で防災情報お知らせメールと市公式LINEの周知をしたことで、目標数の6倍以上の登録数となり、目標を大きく上回りました。 防災訓練やシェイクアウト訓練実施時にFMおとくとにの協力を得て訓練放送を実施しました。 情報発信ツールの拡大及び発信方法の一元化のため市公式SNSに同時に発信できる仕組みを取り入れました。 	達成状況
	課題等	登録者は増加傾向にありますが、様々な情報取得ができる体制を市民に広く知ってもらうための周知活動が必要です。		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
		2:進め方の改善の検討が必要

分野	44	防災・安全	通番 96
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	避難所機能及び 防災備蓄物資等の充実		会計	款	項	目	6,422,394	防災・安全 推進室
			一般	2	1	10		
事業の概要								
<p>避難所機能充実に向けて、要配慮者への対応として間仕切りテント、パーテーションなどや、停電対策としての充電式照明器具等の避難所運営資機材の充実を図ります。</p> <p>また、避難所での情報入手の手段、情報提供の確保を行います。</p> <p>防災食料備蓄数76,000食を維持しながら、利便性の高い小分けの食料へ更新を行います。</p>								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	防災食料備蓄数の更新率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	20	40	60	80	100
		実績	20	40			
<p>・ 備蓄物資等について長岡京市備蓄計画に基づき食糧、日用品及び資機材の更新を行いました。</p> <p>・ 発災時に速やかに使用できるように、長法寺小学校のマンホールトイレを掘り起こしが必要ないように改修しました。</p>						<p>備蓄物資</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 備蓄計画に定められた目標どおりの更新ができました。 ・ 行政が保有する備蓄以外にも各家庭での備蓄及びローリングストック意識の浸透を図るため出前ミーティング等で周知しました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発災時の安定的かつ衛生的なトイレ確保が求められています。 ・ 協定締結先からの供給も含め、現有備蓄で発災時に対応することが可能なのか再検討が必要です。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き備蓄計画に沿った物品等の更新を行います。 ・ 一般避難所及び福祉避難所開設時の備品等の調達について協定締結先と協議します。 ・ 埋設されたマンホールトイレについて、有事の際に使用しやすいように計画的に修繕を行います。

分野	44	防災・安全	通番 97
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	住宅・建築物耐震改修等事業		会計	款	項	9,139,390	住宅営繕課
			一般	2	1		
事業の概要							
市民の生命と財産を守るため、地震による被害を最小限にとどめることを目指し、耐震化に関する啓発を行うとともに、耐震診断・耐震改修に係る費用負担の軽減を行います。 また、エコリフォーム等の他事業とのタイアップを行うことで、更なる負担軽減を図ります。							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	旧耐震木造住宅に対する耐震診断士派遣事業の実施件数(累計)				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	464(令和元年度)	目標	500	525	550	575	600
		実績	484	502			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報・ホームページ等の活用により情報を発信し、耐震改修の重要性と耐震性の向上へ向けた啓発を行いました。 ・ 例年1回の広報紙による募集案内を、制度周知のために2回実施しました。 ・ 耐震改修補助及びエコリフォーム補助の相談者に対し、相互に制度の案内を行う等、制度を活用し耐震化及びエコ化を促進しました。 ・ 耐震診断事業については、木造住宅耐震診断士の派遣を実施しました。 ・ 耐震改修補助については、本格改修補助(補助限度額1,000千円)と簡易改修補助(補助限度額400千円)及び耐震シェルター設置補助(補助限度額300千円)を実施しました。 					啓発パンフレット等		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震改修補助については、本格改修補助(補助限度額1,000千円)は7件7,000千円、簡易改修補助(補助限度額400千円)は3件1,200千円の補助を実施し、住宅の耐震化を推進しました。 ・ 耐震シェルター設置補助については、相談はあったものの申請に至りませんでした。 ・ 耐震診断事業については、木造住宅耐震診断士の派遣を18件実施しました。2回目の募集案内を実施したところ、下半期に申請数が伸びたことで前年度の実績を上回りましたが、目標値には及びませんでした。 	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本格改修と簡易改修については、耐震診断を受けた住宅であることが要件となっているため、令和3年度の耐震診断の件数が少なかったことに伴い申請数が減少しました。 			—

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、国や府と連携した耐震改修補助制度を運用し、耐震化にかかる費用負担を軽減すると共に、市民の防災における耐震化へ向けた意識付けに注力し、耐震化の入り口である耐震診断の実施を広く推し進め、今後の更なる耐震化の促進を図ります。 ・ 京都府や近隣市町村と協力し、耐震改修補助制度を周知するためのイベント開催を検討します。

分野	44	防災・安全	通番 98
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	防災重点農業用ため池の 安全管理事業		会計	款	項	28,817,800	農林振興課
			一般	6	1		
事業の概要							
ため池の決壊による災害から市民の生命と財産を守るため、決壊した場合に人的被害を与えるおそれのあるものとして指定された「防災重点農業用ため池」に対し劣化状況評価を行うとともに、府が行う地震・豪雨耐性評価の結果とあわせ、防災工事が必要と判断された防災重点農業用ため池については、計画的に必要な防災工事を実施します。							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	防災重点農業用ため池の劣化状況評価の実施池数(全13池)				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0(令和元年度)	目標	劣化状況評価の実施	劣化状況評価の完了	—	—	—
		実績	92.3	100			
<ul style="list-style-type: none"> 地震・豪雨耐性評価(劣化状況評価も含む)を府が1池実施し、防災重点農業用ため池の現状を調査しました。 防災工事(改修工事)に向けて、金原寺池の詳細設計、芦原池の調査設計を行いました。 					防災重点農業用ため池(金原寺池) 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 防災重点農業用ため池の状態を把握するため、残り1池の劣化状況評価を行いました。 令和6年度の金原寺池の防災工事着手に向けて詳細設計を行いました。 芦原池の改修工事に向けて、ため池の現状を把握するため令和3年度に引き続き調査設計を行いました。 京都府の事業により、芦原池、薬師池下池に「ため池遠隔水位監視システム」を設置し、防災対策を行いました。
課題等	本市の防災重点農業用ため池周辺は住宅も多く、改修工事に伴う資材搬出入路が良好でないため、多くのため池で今後改修工事实施が困難と予想されます。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 地震・豪雨耐性評価が終了していない防災重点農業用ため池については、引き続き京都府と協議をして順次進めます。 劣化状況評価及び、地震・豪雨耐性評価の結果を基に必要な対策を行う為、引き続き京都府やため池管理者と協議を進めます。

分野	44	防災・安全	通番 99
施策	442	災害時に生きるネットワークづくり	
5年後の目標		災害が発生しても適切な対応ができるよう、様々な主体が、平常時からタイムラインに沿った行動計画の策定や、訓練において協働し、知識普及と意識啓発に努めている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	地域防災力向上事業		会計	款	項	2,131,388	防災・安全推進室
			一般	2	1		
事業の概要							
「長岡京市防災の日」に全小学校区において、要配慮者や女性の視点に立った避難所運営等、より実践的な防災訓練を実施することで地域の防災力の向上を図ります。また、研修会を実施し、地域の中に防災知識と地域事情に熟知した防災リーダーを育成するとともに、自主防災組織の充実と自主防災組織が未組織である地域へ組織化に向けた働きかけを強化します。							

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	防災訓練参加人数					単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	4,259 (令和元年度)	目標	4,300	4,500	4,700	4,900	5,000	
		実績	70	1,300				
<ul style="list-style-type: none"> 長岡第六小学校をメイン会場として、市主催の総合防災訓練を実施しました。 同日に各小学校区において「避難所運営訓練」が実施され、すべての小学校区で同日の防災訓練が初めて開催することができました。 39の自治会・自主防災会、老人会などの団体に対し出前ミーティングを実施し、平常時の顔の見える関係づくりについて啓発を行いました。 防災意識をもって活動するマンションの団体が自主防災組織として補助を受けられるように規則の改正を行いました。 						避難所運営訓練の様子 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 全小学校区で実施しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数を制限した実施となったため、目標人数を達成できませんでした。 新たな取り組みとして、福祉避難所開設・要配慮者移送訓練、災害対策本部状況予測型図上訓練を実施しました。 コロナ禍ではありながら、地域での防災に関する出前ミーティング等の実施は前年比18回増でした。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 各小学校区で避難所運営訓練や地域のニーズに合わせた訓練を実施できるよう、引き続きサポートしていく必要があります。 地域での防災活動について、毎年実施している地域がある一方、まったく実施していない地域があるなど全市民的な防災意識の向上のための働きかけが必要です。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当 対応策等 <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度以降の訓練実施方法の検討のため、実施機関と協議を進めます。 発災時に地域で避難所が運営できるよう、避難所運営マニュアル等の見直しと浸透を図ります。 出前ミーティングなどにより、平常時の防災意識向上に努めます。

分野	44	防災・安全	通番 100
施策	442	災害時に生きるネットワークづくり	
5年後の目標		災害が発生しても適切な対応ができるよう、様々な主体が、平常時からタイムラインに沿った行動計画の策定や、訓練において協働し、知識普及と意識啓発に努めている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	災害ボランティアセンター充実事業		会計	款	項	6,500,000	防災・安全 推進室
			一般	2	1		
事業の概要							
市と災害ボランティアセンターが連携して防災に関する研修会等を開催し、新たな活動者の発掘と育成を行います。 各小学校区で新たな活動者とコミュニティ協議会、自治会、自主防災会等と専門職が協働し、災害時の活動についての取り組みを実施します。							

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	災害ボランティアセンター設置運用訓練実施地域数					単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	0(令和2年度)	目標	1	2	3	4	5	
		実績	0	2				
<p>・市防災訓練実施時に、長岡第五小学校及びメイン会場の長岡第六小学校の2箇所において、ボランティア受付班、ニーズ班・マッチング班、オリエンテーション・送り出し班と役割分担を行いながら、災害ボランティアセンター設置運用訓練を実施しました。</p> <p>・災害発生時に住民相互の支援ができる関係づくりのため、防災講演会や災害ボランティア講座の開催、自治会・自主防災会、小学校等で出前講座を実施しました。</p>						<p>災害ボランティアセンター設置運営訓練</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりながらの実施となりましたが、目標としていた2地域で同日に災害ボランティアセンター設置訓練を実施することができました。	—
	課題等	・実施地域数が増加するに従い、担当者や地域コミュニティ協議会との打ち合わせ、訓練内容の検討などについて、工夫が必要となります。また、地域市民の意識や知識が向上してきていることから、積極的な参画を促すとともに、運営側のスキル向上も求められてきています。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	・災害ボランティアセンター設置運用訓練については、地域で運用できるよう活動者の増と指導者の確保を進めます。 ・災害意識の高揚及び災害ボランティアセンターの周知・啓発のため講演会や地域での出前講座を実施します。

分野	44	防災・安全	通番 101
施策	442	災害時に生きるネットワークづくり	
5年後の目標		災害が発生しても適切な対応ができるよう、様々な主体が、平常時からタイムラインに沿った行動計画の策定や、訓練において協働し、知識普及と意識啓発に努めている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	災害時要配慮者支援体制づくり		会計	款	項	2,886,949	社会福祉課
			一般	3	1		
事業の概要							
災害時にひとりで避難することが困難な人(災害時要配慮者)の把握と避難支援に向けた個別計画の策定に取り組み、災害時要配慮者に対する地域での避難支援体制の整備を進めます。							

令和4年度の取組								
D (取組)	指標①	制度対象者への案内返答率					単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	8(令和2年度調査)	目標	50.0	55.0	60.0	65.0	70.0	
		実績	85.0	88.4				
	指標②	避難支援プラン(個別計画)の策定率(避難支援者が1人以上いる災害時要配慮者の率)					単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
53.4 (令和元年度調査)	目標	55.0	56.0	57.0	58.0	59.0		
	実績	47.0	46.3					
<p>・この1年間で新たに制度の要件に該当した人に対して、制度の登録案内と登録希望の意向確認書(アンケート)を個別発送にて案内するとともに、要件に該当しない人も登録できるように広報紙、自治会回覧等により広く制度を周知しました。</p> <p>・アンケート調査後は、民生児童委員の協力のもと、新規登録希望者と既存登録者へ戸別訪問を行い、最新の要配慮者支援名簿を作成し、各担当の民生児童委員と自治会・自主防災会へ提供しました。</p> <p>・高齢者や障がいのある人で災害時に避難支援が必要な人が、事前の名簿登録につながるよう、介護のケアマネジャーや障がいの相談支援専門員等に対して、制度の説明と意見交換を行いました。</p> <p>・民生児童委員協議会と自治会長会の災害をテーマにした合同勉強会では、自治振興と防災担当課と連携し、制度理解を深めるための講座と意見交換を行いました。</p> <p>・市民にわかりやすく制度を周知するために「長岡京市災害時にともに助けあう制度登録済シール」を登録者へ配付しました。家の玄関等にシールを貼ることで、家を訪問した福祉専門職や近隣住民等に、登録者であることが伝わるようにしたものです。</p>						 <p>長岡京市災害時に ともに助けあう制度 登録済シール</p>		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃個別に支援サービスで対応されている福祉関係機関の協力と情報連携による効果がありました。 ・災害時要配慮者の避難支援に関する情報が行政に集約されるとともに、自治会・自主防災会等において、平時の見守り等にも活用されるよう、個別に地域との情報共有ができました。 ・制度運用において密接な関わりのある民生児童委員と自治会長が活発に意見を交換し、交流できました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・登録希望の意向確認書(アンケート)の返信がなかった人等への対応について検討が必要です。 ・改正災害対策基本法に対応した災害時の避難行動支援体制の検討が必要です。 ・避難支援プラン(個別計画)作成の効果的な進め方について、検討が必要です。 			

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・登録希望の意向確認書(アンケート)について、前年度に回答がなかった人へのフォローアップの検討を行います。 ・制度の要件に該当する人が名簿登録できるよう個別案内通知の他、福祉サービス等で支援する関係機関と取り組みの検討を行うなど連携を強化しながら、支援が必要な人に支援が届くように広報・啓発活動を行います。 ・避難支援プラン(個別計画)作成の取り組み推進のため、既実施自治会の取り組みが広がるよう、未実施の自治会・自主防災会へ福祉と防災が連携してアプローチします。 ・新たに避難支援プラン(個別計画)作成の取り組みを検討する自治会等に対して、出前講座等による制度説明やプラン作成方法を提案する等しながら地域の取り組みを支援します。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・登録希望の意向確認書(アンケート)について、前年度に回答がなかった人へのフォローアップの検討を行います。 ・制度の要件に該当する人が名簿登録できるよう個別案内通知の他、福祉サービス等で支援する関係機関と取り組みの検討を行うなど連携を強化しながら、支援が必要な人に支援が届くように広報・啓発活動を行います。 ・避難支援プラン(個別計画)作成の取り組み推進のため、既実施自治会の取り組みが広がるよう、未実施の自治会・自主防災会へ福祉と防災が連携してアプローチします。 ・新たに避難支援プラン(個別計画)作成の取り組みを検討する自治会等に対して、出前講座等による制度説明やプラン作成方法を提案する等しながら地域の取り組みを支援します。
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・登録希望の意向確認書(アンケート)について、前年度に回答がなかった人へのフォローアップの検討を行います。 ・制度の要件に該当する人が名簿登録できるよう個別案内通知の他、福祉サービス等で支援する関係機関と取り組みの検討を行うなど連携を強化しながら、支援が必要な人に支援が届くように広報・啓発活動を行います。 ・避難支援プラン(個別計画)作成の取り組み推進のため、既実施自治会の取り組みが広がるよう、未実施の自治会・自主防災会へ福祉と防災が連携してアプローチします。 ・新たに避難支援プラン(個別計画)作成の取り組みを検討する自治会等に対して、出前講座等による制度説明やプラン作成方法を提案する等しながら地域の取り組みを支援します。 				

分野	44	防災・安全	通番 102
施策	443	安全・安心な地域づくり	
5年後の目標		自助、互助・共助、公助が相互に補完しあい、防犯・交通安全など、地域の生活の安全・安心をつくり守る力が強まっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	安全・安心地域見守り ネットワーク事業		会計	款	項	28,883,367	防災・安全 推進室
			一般	2	1		
事業の概要							
防犯カメラシステムの適正な管理・活用を図ることにより、社会全体の見守り機能を強化します。また防犯委員会の活動や地域住民の自主的な防犯活動への支援を行うとともに、長岡京市安全・安心まちづくり協定に基づく長岡京市・向日町警察署の相互連携により、安全・安心が実感できる住みよいまちづくりを推進します。							

令和4年度の取組								
D (取組)	指標	市内における刑法犯認知件数					単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	297(令和元年度)	目標	前年を上回らない	前年を上回らない	前年を上回らない	前年を上回らない	前年を上回らない	
		実績	188	164				
<ul style="list-style-type: none"> 警察、高齢介護課による照会に対して60件の閲覧等を実施し、犯罪捜査、行方不明者捜索へ寄与しました。 防犯委員等による青色回転灯パトロール車を活用した巡回及び特殊詐欺防止の啓発を73回行いました。 					見守り機能付き防犯カメラ イメージキャラクター 			

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 全国の刑法犯認知件数は増加傾向にありますが、本市においては警察への捜査協力、防犯灯等の設置や各防犯委員・地域の自主防犯活動の取り組みにより、前年に比べ件数を減らすことができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 市内の刑法犯の認知件数は減少傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症の影響による人流の変化により今後は不透明な部分があります。 		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き警察への捜査協力、防犯灯等の設置や各防犯委員・地域の自主防犯活動に取り組みます。

分野	44	防災・安全	通番 103
施策	443	安全・安心な地域づくり	
5年後の目標		自助、互助・共助、公助が相互に補完しあい、防犯・交通安全など、地域の生活の安全・安心をつくり守る力が強まっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	交通安全普及事業		会計	款	項	938,111	交通政策課
			一般	8	2		
事業の概要							
交通事故の減少を図るため、交通ルールの遵守、マナーを普及するための交通安全教育や、啓発活動を行います。安全で快適な自転車の利用の促進に関する条例及び自転車活用推進計画に基づき、自転車の安全教育や啓発の更なる強化を図ります。また、新たな「ゾーン30」の検討を進めます。							

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	市内交通事故件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	107(令和元年度)	目標	102	97	92	87	83
		実績	63	78			
<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全対策では、市関係課と関係機関による現場調査や点検、整備に向けた協議を行いました。 ・安全教育は、地元事業所、市民、特に高齢ドライバーへ参加勧奨し、新しい技術(テレマティクス)を使った急ブレーキや急ハンドル等の「危険運転場所の見える化」を体験することにより、交通事故防止につなげる目的で、種々のイベントを市制50周年事業の一環として行いました。 ・市民要望場所や交通事故多発場所等において、交通ボランティアや警察と共同で自転車や歩行者(合図横断)に対して啓発活動を推進しました。 						 <p>安全運転コンテスト表彰式の様子</p>	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員	
	達成度合	市内交通事故発生 件数・負傷者数		令和4年中の市内交通事故(人身事故)発生件数と、市内交通事故負傷者数は、令和3年(63件)と比べてともに増加しています。	191
		A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年中の市内交通事故(人身事故)発生件数は78件、負傷者数は84人で目標値を上回りました。 ・令和4年中の市内交通事故死者は0人で、前年と比べて減少しました。 ・負傷者84人のうち、自転車に関係する事故が28件発生し、そのうち自転車同士が2件ありました。また、自転車乗車中に負傷した人は28人で、うち3人が重傷でした。 ・高齢者の交通事故は、全死傷者数の23.0%を占め、そのうち自転車運転中と原付車運転中が増加しています。 	
課題等			<ul style="list-style-type: none"> ・全死傷者数のうち高齢者の占める割合は、他の年齢層に比べて高く、高齢ドライバーと高齢歩行者に対して、より効果的で適切な交通安全教育や対策の手段・手法の確立が課題です。 ・市自転車活用推進計画策定による道路管理者の自転車通行環境整備に合わせ、自転車利用者への交通ルール遵守(自転車安全利用五則)とマナーを向上させるよう継続的な取組みが必要です。 		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教育については、体系的、計画的に行うことが望ましく、引き続き、知識や経験がある交通教育指導員から、幼、小・中学校や、高齢者団体等へ交通安全教室やタイムリーな情報・資料提供を行っていきます。 ・高齢運転者と高齢歩行者及び自転車利用者対策について、引き続き関係機関や団体と協働によるマナー向上啓発活動や道路管理者と連携し道路環境整備による対策を行っていきます。